

## 2014年春の裏磐梯地下水調査報告

今年も、5月10日に柴崎研主催の裏磐梯地下水調査を実施しました。参加者は、教員1名、柴崎研大学院生2名と4年生3名、それに柴崎研究室を訪問した3年生5名の、計11名でした。

まず、昨年11月に磐梯朝日遷移プロジェクトで設置した裏磐梯スキー場地下水観測孔のデータ回収と温度プロファイル測定、水質サンプリングを行いました。地下水位と水温は、昨年11月に観測を開始して以降、30分間隔で順調に記録されていました。5月10日の地下水位は地面から約20m下にあり、3月末から4月中旬にかけての雪解けによる水位上昇の後、4月下旬から水位は急激に低下していました。

つぎに、まだ日陰に雪が残る山道を登り、標高1,112.5mの銅沼で水位・水温データの回収と水質調査を行いました。銅沼の水位は昨年同時期よりもやや低い状況でした。その後、弥六沼、毘沙門沼での自記水位計データの回収と裏磐梯ビジターセンターでの大気圧データの回収を行い、調査は無事に終了しました。



地下水観測孔での水位測定方法の説明



銅沼に入っでの自記水位計の回収



銅沼での現場水質測定



調査に参加した院生と学生